第三十回吉井淳二記念展

3月3日から3月17日にかけて、末吉総合体育館で「特別企画展　第30回吉井淳二記念展」が開催されました。

三十周年を迎えた今回は、特別企画展として、吉井淳二画伯が遺した作品や、歴代吉井淳二賞の作品等と共に洋画展の歴史を振り返る「三十年のあゆみ」も同時に開催されました。

3月3日の開会日はオープンに先立ち、末吉総合センターで入賞者の表彰式が行われ、代表して一般部門で吉井淳二賞を受賞した久保孝彰さんが「この場に立ち、初めて授賞の実感がわきました。今回の授賞が、今後の制作の後を押してくれるものとなりました」と喜びの言葉を述べられました。

授賞式終了後は、永く吉井淳二記念展に関わられてきた鳥取政昭氏、有水基雄氏、米田安希氏によるメモリアルトークが行われ、「吉井展は市民が作り上げてきた展覧会。絵を描く人、描かない人にとっても楽しみな吉井展」と語られました。その後、宮崎緑さんによる記念講演も開催され、式典に花を添えました。

講演終了後、会場の末吉総合体育館でテープカットを行い、吉井淳二記念展がオープン。来場者は約一二〇〇点の作品に真剣な眼差しを送り、絵画を楽しんでいました。

吉井淳二賞　高校生部門

反旗
稲葉聖乃（甲南高校）

吉井淳二賞　一般部門

famille2013 - Ⅱ
久保孝彰（鹿児島市）

吉井淳二賞　招待作家部門

追憶海峡
犬童二郎（鹿児島市）

特別企画展　第 30 回吉井淳二記念展
入賞者一覧

応募総数 2,732 点

■高校生部門

賞　名	氏　名	学校名
吉井淳二賞	稲葉　聖乃	甲南高校
市長賞	千竃　佐保	加治木高校
議長賞	中村　瑞姫	鹿屋女子高校
教育長賞	中川　実彌	国分中央高校
南日本新聞社賞	村山　神子	国分中央高校
南日本放送賞	津江　太陽	宮崎日大高校
NHK 鹿児島放送局賞	三縄　香織	甲南高校
KTS 鹿児島テレビ賞	堀之内　聖	玉龍高校
KYT 鹿児島読売テレビ賞	今村　雄哉	松陽高校
KKB 鹿児島放送賞	泊　美早紀	鹿児島女子高校
都城市長賞	大迫　璃子	甲南高校
鹿児島県美術協会賞	堀之口　嘉希	松陽高校
大隅美術協会賞	猜松　志帆	末吉高校
優秀賞	杖谷　美彩	松陽高校
優秀賞	幸喜　あすか	松陽高校
優秀賞	登尾　友貴	錦江湾高校
優秀賞	平川　莉帆	鹿屋女子高校
優秀賞	永田　しなり	財部高校
秀作賞	西畑　昇太郎	霧島高校
秀作賞	小谷　優衣	松陽高校
秀作賞	赤﨑　梨緒乃	川辺高校
秀作賞	牛込　彩音	出水高校
秀作賞	田上　美鈴	福山高校
奨励賞	田代　歩美	霧島高校
奨励賞	小谷　菜希	霧島高校
奨励賞	前田　栞里	開陽高校
奨励賞	前田　慈聞	松陽高校
奨励賞	岡元　栞那	錦江湾高校
奨励賞	水之浦　駿	鹿児島修学館高校
奨励賞	中尾　奈緒美	末吉高校
奨励賞	隈﨑　琴花	タラデザイン専門学校高等部

■ジュニア部門（幼児の部）

賞　名	氏　名	学校名
市長賞	上段　誠広	樹心保育園
議長賞	久保　佳暉	しゃら保育園
教育長賞	西田　颯真	高岡幼児学園
市美術協会賞	林　寛大	樹心保育園
優秀賞	内永　喬乃	末吉中央幼稚園
優秀賞	山田　凌聖	太陽の子保育園
優秀賞	原　愛里菜	太陽の子保育園
秀作賞	熊ノ迫　七海	樹心保育園
秀作賞	丸山　一先	樹心保育園
秀作賞	山元　花音	太陽の子保育園
奨励賞	中山　旭翔	樹心保育園
奨励賞	吉岡　綾乃	大隅中央幼稚園
奨励賞	柿元　優真	岩川保育園

■ジュニア部門（小学生の部）

賞　名	氏　名	学校名
市長賞	正山　心	財部小学校
議長賞	竹之内　姫羅々	深川小学校
教育長賞	切通　愛莉	財部小学校
市美術協会賞	藤　慧真	財部南小学校
優秀賞	宮﨑　一正	諏訪小学校
優秀賞	蓮香　佑一郎	財部小学校
優秀賞	田尻　涼	財部南小学校
秀作賞	松尾　春香	大隅南小学校
秀作賞	岩吉　楽人	末吉小学校
秀作賞	坂口　汐璃	岩南小学校
奨励賞	今村　翔太	深川小学校
奨励賞	山下　香夏美	大隅北小学校
奨励賞	中島　大介	大隅北小学校

■一般部門

賞　名	氏　名	市町村
吉井淳二賞	久保　孝彰	鹿児島市
市長賞	吉田　喜代子	鹿屋市
議長賞	山元　悦子	鹿児島市
教育長賞	鎌田　高明	霧島市
南日本新聞社賞	船迫　美和子	鹿児島市
南日本放送賞	宮脇　美代子	鹿屋市
NHK 鹿児島放送局賞	山鹿　洋子	鹿児島市
KTS 鹿児島テレビ賞	郡山　昱郎	鹿児島市
KYT 鹿児島読売テレビ賞	山元　梨香	霧島市
KKB 鹿児島放送賞	松下　幸男	鹿児島市
宮崎日日新聞社賞	川畑　清美	薩摩川内市
都城市長賞	平原　惠子	出水市
鹿児島県美術協会賞	海江田　宏	指宿市
大隅美術協会賞	吉留　エミ子	鹿児島市
優秀賞	横井　愼一	鹿児島市
優秀賞	岩元　隆	鹿児島市
優秀賞	濵田　健	鹿児島市
秀作賞	松薗　守男	曽於市
秀作賞	山口　正人	日置市
秀作賞	ジェームス　ハリス	都城市
奨励賞	野平　智広	日置市
奨励賞	伊地知　和枝	霧島市
奨励賞	二川　由利	鹿屋市
奨励賞	田實　鈴子	曽於市
奨励賞	日髙　基孝	宮崎市
奨励賞	黒﨑　順子	鹿屋市
奨励賞	中野　誠	南さつま市
奨励賞	吐師　良子	鹿屋市
奨励賞	大浦　敦子	宮崎市
奨励賞	仮屋薗　弘子	鹿屋市
新人賞	下之薗　崇	肝付町
招待作家推挙	貴島　すみ子	鹿屋市
招待作家推挙	吉田　喜代子	鹿屋市
招待作家推挙	児玉　典子	曽於市
招待作家推挙	石田　利子	曽於市

■招待作家部門

賞　名	氏　名	市町村
吉井淳二賞	犬童　二郎	鹿児島市

■ジュニア部門（中学生の部）

賞　名	氏　名	学校名
市長賞	南脇　椋太	財部中学校
議長賞	上村　健一	財部中学校
教育長賞	松田　龍佑	財部中学校
市美術協会賞	池之上　大樹	大隅中学校
優秀賞	椨松　直大	財部中学校
優秀賞	下村　慶志	大隅中学校
優秀賞	高橋　康貴	大隅中学校
秀作賞	鮫嶋　貴哉	大隅中学校
秀作賞	佐藤　美貴	財部中学校
秀作賞	田中　都萌	財部中学校
奨励賞	小八ヶ代　志穂	財部中学校
奨励賞	山田　彩乃	末吉中学校
奨励賞	村田　響	財部中学校

第 30 回吉井淳二記念展 審査委員
左から大隈武夫氏、吉井浩氏

～歴代吉井淳二賞作品と共に振り返る～

吉井淳二記念展 30 年のあゆみ

歴代吉井淳二賞作品　一般の部

第 1 回

サロメの舞
片倉　輝男

第 5 回

案山子 I
米田　安希

第 12 回

「BLACK MUSIC-鼓動-」
立元　真一郎

第 23 回

花を持つ女
児玉　典子

第 25 回

風景
石田　利子

第 29 回

KIZUNA（春隣）
大川内　啓悦

歴代吉井淳二賞作品　招待作家の部

第 3 回

競う
有水　基雄

第 5 回

少女立像
文田　哲雄

第 8 回

窓辺の風景
藤原　和郎

第 9 回

桜島（引の平）
鳥取　政昭

第 10 回

バードウォッチング
祝迫　正豊

第 11 回

秋真如堂（京都）
長野　英

第 12 回

顔の構成
前田　芳和

第 14 回

白い刻
立元　史郎

第 25 回

からくり人形の夢
本村　理

第 26 回

棚田を走る陽光（伊佐盆地）
犬童　次夫

吉井淳二記念展の誕生

昭和56年、日本洋画壇の重鎮吉井淳二画伯を生んだ故郷のよさを見直し、絵を通して文化的風土の醸成を図ろうと、「絵の町末吉」の運動がスタートしました。その年間活動の集大成として、昭和57年2月に「絵の町末吉作品展」が開催されました。

この活動の高まりに伴い、一段の飛躍と新進作家の台頭を促す事を目的として、昭和59年に県内一円、都城市、北諸県郡在住者を対象とした「第一回吉井記念末吉町洋画展」が開催されます。第一回の出展数は二八二点で、期間中は約三千人の観覧者が訪れました。

その後、回を重ねる毎に出展数は増加、それに伴い規模も拡大し、現在では、県内でも有数の洋画展へと成長を遂げました。

第１回吉井記念末吉町洋画展の様子
（広報すえよし昭和 59 年 3 月号より）

平成16年11月に吉井画伯が逝去、翌17年7月には曽於市の誕生と、様々な出来事と共に、「吉井淳二記念展」は今回、三十周年を迎えました。

吉井淳二画伯

明治37年、末吉町深川に誕生。

大正13年に東京美術学校（東京芸術大学の前身）へ主席入学。在学中には光風会展を皮切りに多くの洋画展で入選を果たす。

卒業と同時にパリへ渡り、ヨーロッパの絵画を学ぶ。帰国後、二科会展にて特待賞を授賞し、昭和15年には二科会会員となる。

その後は、南日本美術展の創設、日本芸術院会員、二科会理事長を歴任する。平成元年には文化勲章を受章。

平成16年11月23日　逝去

第30回吉井淳二記念展を迎えて

鳥取　政昭

吉井淳二画伯を生んだ郷里の良さを見直し、絵を通して郷土の文化的風土の育成を図ろうと言う機運を盛り上げ、その中心的役割をはたして来た「絵の町末吉推進委員会」は、「絵の町末吉」の年間活動の集大成として昭和56年度から「絵の町末吉展」を始めた。そしてその三年後の昭和59年2月に絵の町末吉の一層の発展を促すため、吉井先生の後に続く新進作家の台頭を促そうと、この「吉井記念末吉町洋画展」を開催、その審査には吉井淳二先生が直接当ってくださいました。

私の吉井先生との思い出で一番大きな仕事はこの洋画展でした。吉井先生の八十歳から百歳までの22回に及ぶ審査の仕事をお手伝いしました。吉井先生は、ふるさと末吉のために最後の仕事として情熱を傾けて審査に当たられました。私にとりましては、一番大きな勉強の場となりました。そして第18回の吉井展から有水基雄先生が加わってくださり、二人で吉井先生を支えてまいりました。

この吉井展の本質を第5回展のお言葉「末吉町美展は地方の時代の夜明け」の中で「吾が末吉町は町の発展を産業と教育文化との一本化によって成し遂げようと動き始めて十年になり、その大きな現れが先般完成した末吉町文化センターでありましょう。産業の振興と文化活動が車の両輪のように一つになって町は活気づいて参りました」とあり、これはまさにこの洋画展の果たす役割を言い当てておられます。

ここで「絵の町末吉」の原点に帰って、この吉井展がただの作品展で終わるものでないことを再確認すべきだと思うことです。

そのためには、皆で絵をかく講習会を盛んにして「絵の町末吉」の原点を実践することだと思います。